高陽のまちづくりについて

３つのエリアが共存共栄するまちの実現に向けた提言書

平成２８年９月

高陽地区町内会・自治会連絡協議会

≪高陽の現状≫

高陽は、太田川、三篠川、根谷川沿いの広島市東北部に位置し、昭和４０年代以降の高度成長期に広島県住宅供給公社が大規模住宅団地を造成して以降は、広島市のベッドタウンとして発展してきた。

現在では、広島市都市計画マスタープランにおいて、可部と同じく「地域的な都市機能を担う拠点地区」に位置付けられており、可部よりも多くの人口を抱えている。

高陽は、
・住宅団地を中心とする地域
・中山間地を中心とする地域
・その間に挟まれた古くからある市街地の地域
の３つの地域に大別することができる。

住宅団地を中心とする地域では、商業機能が集積し、都市的生活を享受することができる。一方、中山間地を中心とする地域は、農山村としての性格を有している。

このように、高陽は地域によって、地形や特性が大きく異なっている。

また、全国的に少子高齢化が進む中、高陽でも人口減少や居住者の高齢化などが大きな課題となっている。

≪高陽の取組≫

人口減少に打ち克つためには、それぞれ地域の課題や特性に合わせた取組を進めていく必要があるが、特に、高陽では、地域によって都市機能の集積度合も大きく異なるため、地域全域の取組と並行して、３つの地域の活性化に取り組んでいく必要がある。

このため、高陽では「３つのエリアが共存共栄するまち」をまちづくりのテーマに掲げ、
・住宅団地エリアでは、いつまでも住みやすい住宅団地を、
・古くからある街並みエリアでは、活気あふれる芸備線沿線を、
・中山間地エリアでは、安心して暮らせる中山間地を、
それぞれ目指した取組を進める。

また、高陽全域の取組として、日常生活を支える都市機能を強化し、拠点性の向上を図ることで、可部地域と同様、安佐北区の拠点地区としての役割を果たしていく。

1　高陽全域としての取組

目　　標：安佐北区における拠点地区としての役割を果たすため、地域の都市機能を強化し、拠点性の向上を図る。

ポイント：まずは、都心や県北部、他地域とのネットワークを充実させることにより、高陽の拠点機能を高めることが、高陽だけでなく、安佐北区内外の住民の生活環境の向上につながることから、基幹道路（特に広島三次線）を整備する必要がある。基幹道路を整備して通勤環境等が向上すれば、高陽に新たに若者を呼び込む効果も期待できる。また、「地域的な都市機能を担う拠点地区」（都市計画マスタープラン）にふさわしいまちづくりを進めるため、公民館・出張所・文化ホール・図書館等の機能を兼ね備えた拠点施設を整備するとともに、高陽全体のまちづくりやイベント等について協議・実行する体制を確保する必要がある。

広島三次線の渋滞対策

高陽の３エリアを結び都心部へとつながる広島三次線は、高陽の交通アクセスを考える上で最も重要な路線であり、交差点改良や拡幅等を進めることで、交通渋滞の解消を図る。なお、広島三次線と広島中島線が合流する小河原口交差点付近では頻繁に交通渋滞が発生していること、また、中深川～上深川の区間ではＪＲ芸備線の列車が中深川交差点付近の踏切を通過する際にひときわ交通渋滞が発生していることから、特に、小河原口交差点と中深川交差点の改良工事を早急に進める。

高陽から可部バイパスに繋がる道路の新設（可部自動車学校付近～可部バイパス）

安佐北区のもう一つの拠点地区に位置付けられた可部とのつながりを強め、高陽と可部が相互に刺激し高め合うまちづくりを進めるため、根の谷川橋北詰から可部自動車学校付近を経由し可部バイパスへと接続する道路を新設し、可部方面へのアクセスの改善を図る。

深川福田線の整備

広島三次線と広島中島線は、中深川～上深川において路線が重複していることから、特に朝夕の通勤通学時間帯には渋滞が発生しており、また、広島中島線の広島東インターチェンジ付近で事故が発生した場合、他に替わる道路がないことから長時間の交通渋滞が発生している。このため、高陽の慢性的な渋滞を解消するとともに、高陽への企業進出を促進するため、かつて計画されていた深川と福田を結ぶ深川福田線の整備を進める。

スマートインターチェンジの整備

高陽では山陽自動車道が地域の東西を横断しているが、地域内にインターチェンジ等は設置されておらず、山陽自動車道がまちの活性化や都市機能の強化に直接つながっていない。このため、比較的低コストで導入が可能なスマートインターチェンジを落合地区に整備することで、地域外からの居住者や事業所等を呼び込む。

中筋温品線の整備

市の環状道路として位置付けられていながら整備が遅れている中筋温品線について、中筋地区と口田地区を結ぶ橋りょうの新設工事を早急に進めることで、高陽から広島インターチェンジへのアクセス改善を図るとともに、引き続き中筋温品線の全線開通を早期に実現することで、広島三次線の渋滞を解消し、基幹道路の整備を契機としたまちづくりを進める。

拠点施設の整備（高陽公民館、高陽出張所、福祉会館、図書館等の合築施設）

昭和４８年に旧耐震基準により建てられた高陽公民館は、老朽化が進んでおり、また、ホール（収容人数：２００人）や駐車場（収容台数：２７台）が狭く、敬老会などの地域行事に支障が出ていることから、隣接する高陽出張所との合築による建て替えを進める。なお、建て替え後の施設には、高陽や白木の住民が身近に利用できる文化ホール（収容人数：３５０人程度）、図書館等の機能を追加し、新たな高陽の拠点施設（駐車場収容台数：１００台程度）として位置付け、地域コミュニティなどの更なる活性化を図るために活用する。

高陽まちづくり協議会の立ち上げ

高陽のまちづくりについて、高陽９学区の町内会連合会長や各種団体長等が協議・実行するため、高陽まちづくり協議会を立ち上げる。

高陽絆まつり実行委員会の立ち上げ

高陽の町内会連合会長や各種団体長で構成する高陽絆まつり実行委員会を立ち上げ、毎年夏に高陽絆まつりを開催するとともに、まつりの運営に参加する地元の中高生に高陽の歴史や特色などを活用した地域のにぎわいづくり等について指導することで、高陽全体の一体感を醸成し、若者の郷土愛を育む。

2　住宅団地エリアの取組

目　　標：居住地としての良好な環境を活かし、いつまでも住み続けたいまちを作る。

ポイント：住宅団地エリアは住宅の区画や道路の配置、公園・広場の整備、街並み・景観など居住地として良好な住環境を有している。このため、高齢化が進む中でも住民が引き続き良好な環境の中で生活できるよう、交通施設等のバリアフリー化を進める必要がある。また、豊かな自然環境や地域資源等を活用して、住民が集い交流する場を創出することにより、いつまでも住み続けたいと思えるまちづくりを進める必要がある。

ＪＲ下深川駅への構内エレベーター（もしくはエスカレーター）の整備

ＪＲ下深川駅は、多くの高齢者（白木の住民を含む）が安佐市民病院へ通院するために利用しているが、改札口がプラットホームや深川側の接続道路から見て２階部分にあり、駅を利用するためには長く急な階段を上り下りする必要がある。このため、改札口とプラットホーム及び改札口と深川側接続道路の間にそれぞれエレベーター（もしくはエスカレーター）を整備し、全ての住民がＪＲ下深川駅を円滑に利用できる環境を整える。

ＪＲ安芸矢口駅のバリアフリー化

１日当たりの利用者数が三千人を超えるＪＲ安芸矢口駅は、改札口とプラットホームとの間が跨線橋でつながっているため、障害者や高齢者の利用に支障をきたしている。このため、跨線橋にエレベーターを設置するなど、ＪＲ安芸矢口駅のバリアフリー化を早急に進める。

中小田古墳群の整備

中小田古墳群は、「卑弥呼の鏡」とも言われる三角縁神獣鏡が出土するなど、文化財として非常に高い価値を有していながら、西側斜面の防災工事等により整備が遅れている。このため、防災工事を早期に完了させ、古墳公園としての整備を進め、来訪者や住民が古墳と触れ合い楽しむことのできる場を提供する。

「大人のかくれ家」をモデルとした交流活動の実施

口田地区の「大人のかくれ家」をモデルとして、他の地区の里山などにおいても、幅広い世代が交流できる活動拠点を住民自らが整備し、コンサートやプレーパークなど様々な交流活動を展開することで、住民間等のつながりを深めるとともに、地域の魅力を内外に発信する。

3　古くからある街並みエリアの取組

目　　標：ＪＲ芸備線がエリア中央を通過する強みを活かし、活気にあふれたまちづくりを進める。

ポイント：深川地区周辺は、多くの通勤・通学者を運ぶＪＲ芸備線がエリアの中央部を通過しており、定住や企業進出の受け皿となる潜在能力を有している。こうした強みを活かして今後の人口増加を図るためには、芸備線の利便性を向上させる必要がある。また、人口増加だけに頼ることなく活気にあふれたまちづくりを進めるためには、古くからの歴史等に根差した地域資源を活用し、来街者が何度も訪問したくなるような賑わいを創出する必要がある。

ＪＲ芸備線とＪＲ可部線の接続

ＪＲ芸備線とＪＲ可部線を接続させ、高陽・白木から可部へのアクセスを改善することで、可部方面への通勤・通学者を芸備線沿線に誘導する。また、ＪＲ芸備線とＪＲ可部線が環状線化されることにより、安佐北区のみならず広島市全体の活性化を図る。

ＪＲ中深川駅への行き違い施設の整備

ＪＲ芸備線では、下深川駅より三次側で列車の運行本数が大幅に減少しており、このことが中深川駅以降の沿線の魅力を低下させる要因となっている。このため、中深川駅に行き違い施設を整備することで、中深川駅以北の列車の運行本数を増加させる。

深川地区まちづくり委員会の立ち上げ、地域の魅力づくり

深川地区には、史跡や口伝による民話、木の宗山を始めとした自然環境など、様々な地域のお宝が残されており、また、史跡探訪などの公民館活動や、古老から聞いた話を次世代へ継承する活動、千本桜を目標に木の宗山憩いの森へ植樹を続ける活動など、住民主体の取組が進められている。これらの取組を母体としながら、これまでの取組を拡充し、更なる地域の魅力づくりにつなげるため、新たな推進組織として深川地区まちづくり委員会を立ち上げる。さらに、新たなお宝の掘り起こしを目的に、深川地区の新たな特産物の開発に取り組むほか、三篠川の河川堤防を散歩コース・サイクリングコースとして活用するため、休憩所やトイレ、標識（史跡等への誘導標識を含む）の設置を検討する。

4　中山間地エリアの取組

目　　標：豊かな田舎暮らしを安心して営むことができるよう、災害に強いまちづくりを進めるとともに、生活インフラを充実させる。

ポイント：中山間地エリアは、豊かな自然環境や美しい景観、地域固有の歴史・文化・行事など、様々な魅力を有する反面、地理的な条件等から、災害時の不安、買物や通院といった日常生活の不便さなどを感じることが多い。こうしたことから、生活インフラや地区の拠点づくりに取り組むとともに、水害や有害鳥獣による被害などから生活を守るまちづくりを進める必要がある。

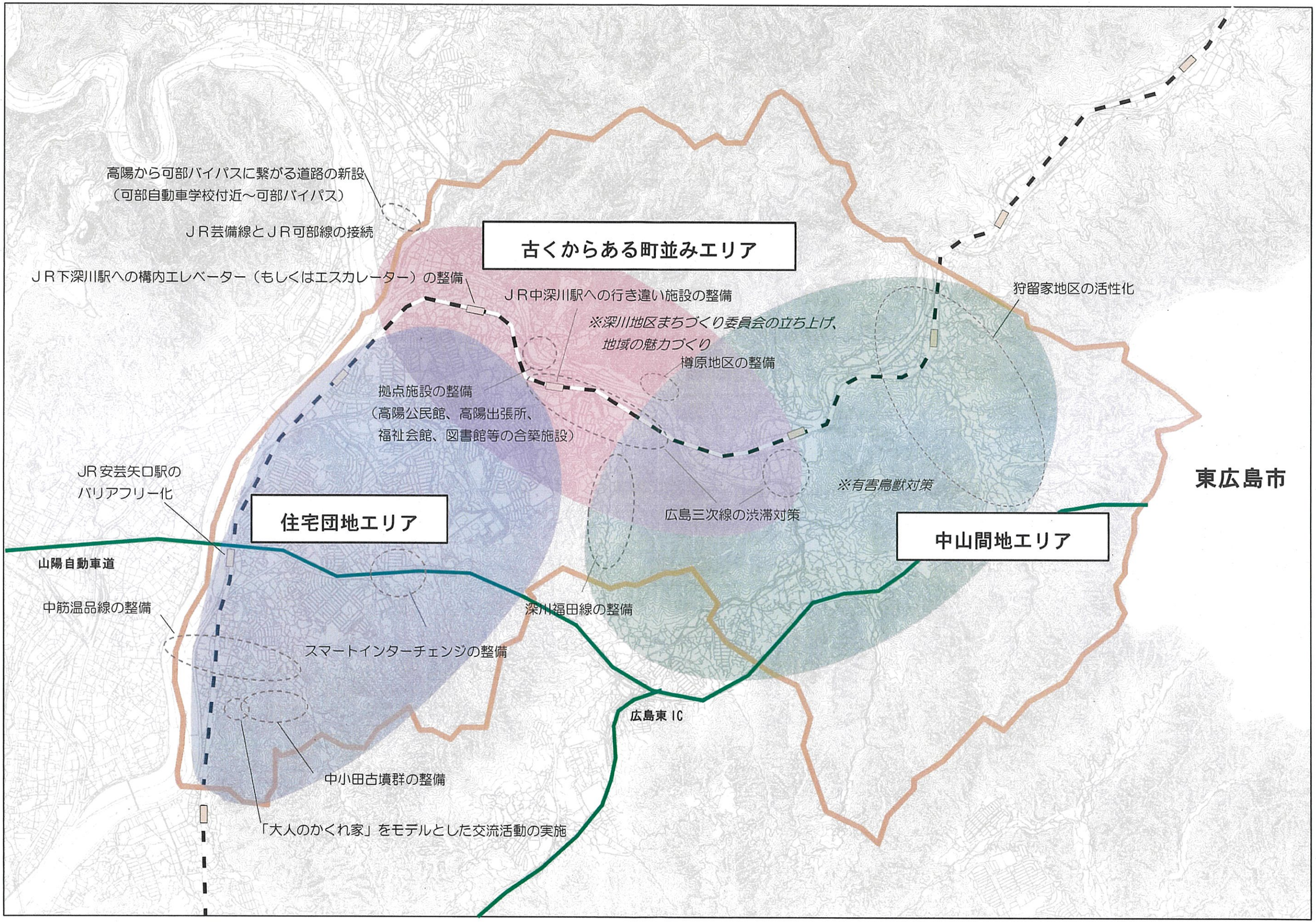
樽原地区の整備

三篠川の堤防が未整備となっている樽原地区では、大雨が降るたびに床下浸水などの被害が発生しており、また、地区内に架けられた横川橋は幅員が狭いため、緊急時でも消防車や救急車が通行することができない。このため、樽原地区の住民が安心・安全な生活を営めるよう、横川橋上流右岸の堤防を早急に設置するとともに、横川橋から薬師橋までの避難道を整備する。

狩留家地区の活性化

狩留家・町づくり推進協議会が取りまとめる狩留家活性化ビジョンを踏まえ、当地区の核となる拠点づくりや自然・歴史等を活用した各種ソフト事業に取り組み、地区の活性化を図る。

有害鳥獣対策

シカやイノシシ、サルなどによる農作物の被害を食い止めるとともに、人的被害を防止するため、地元が管理する防護柵を各集落に据え付けるほか、新たに行政が捕獲専用の檻を設置するなど、有害鳥獣対策の拡充を図るなど、有害鳥獣対策の拡充を図る。

高陽のまちづくりに向けた取組